

# 秋田大学鉱山学部鉱業博物館

小村 幸二郎

観音台と呼ばれる秋田市手形字大沢31の地は 豊かな自然林におおわれた 静かな山腹の一部である。この山腹の一角に 秋田大学鉱山学部鉱業博物館が 純白の美しい姿を見せて 建っている(第1図)。 円形3階建の本館 長方形4階建の研究室 両者の接続部など 延面積3,663平方メートルの鉱業博物館は 秋田大学の前身である秋田鉱山専門学校の標本室が 昭和16年2月に類焼して以来 およそ10年後の昭和26年11月に再興された鉱山博物館を母体とし 鉱山学部創立50周年記念事業として完成され 昭和36年10月8日 天皇皇后両陛下の御臨幸の下に 開館した。

建物母体の白と接続部や腰の外装材として使われている塩焼煉瓦の渋い色は 背後の緑とも巧みに調和して 素晴らしい外観を見せているが 陳列本館の内部も 地質系博物館らしく 様々の配慮がなされている。

こじんまりした玄関を入ると 左側の壁に 一般の博物館では見なれない 鉱物の結晶形を示すモザイク張りがあり この博物館が地質系の博物館であることを暗示するとともに 内部の陳列展示への導入部としての役割を果たしている(第2図)。

1階には 象徴的空間としての中央ホール 陳列室 事務室 館長室 応接室 会議室 工作室などがある(第3図)。

中央ホールは この建物の中心部に当り 大理石を用いて円形のモザイク張りをしたその床は 建築石材としての大理石の価値を示す一種の展示であり 建物の形や

上階への階段の形との調和を考慮して 石のもつ美しさと建築の美しさを示している。 平面的に円形を示す階段は 多分 屋上のガラスを通る光を可能な限り確保するためのアイデアと 鉱物や岩石など 一般には冷たさを感じさせる展示物を主とする この種の博物館の内部にやわらかなムードをかもし出す 建築上の演出の表われであろう(第4図)。

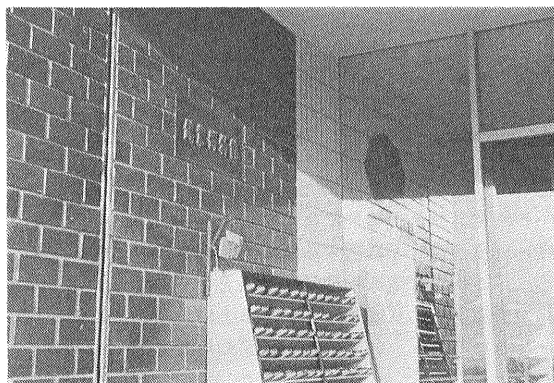
博物館としての役割を果たすためには 標本等の陳列展示のほかに 管理・事務的業務が行なわれなければならない。 この博物館には 玄関に入った右手の廊下に面して 事務室(第5図) 館長室(第6図) 応接室(第7図) 会議室(第8図) などがある。 どの室も決して大きくはないが 小じんまりとまとまっており 動線を考慮して 中扉で連絡されている。

工作室は東側の長方形の建物の一部にある。ここでは 陳列物の説明プレートやパネルなどが作られている。 現在では日本唯一ともいえる特徴ある博物館であるだけに 陳列物の交換などもかなりひんぱんに行なわれるのであろうから こうした作業もかなり多いのだろう。 職員の1人が 常時 この作業に従事しているということだが 博物館の維持費を考えると 外注するよりははるかに安上りかもしれない(第9図)。

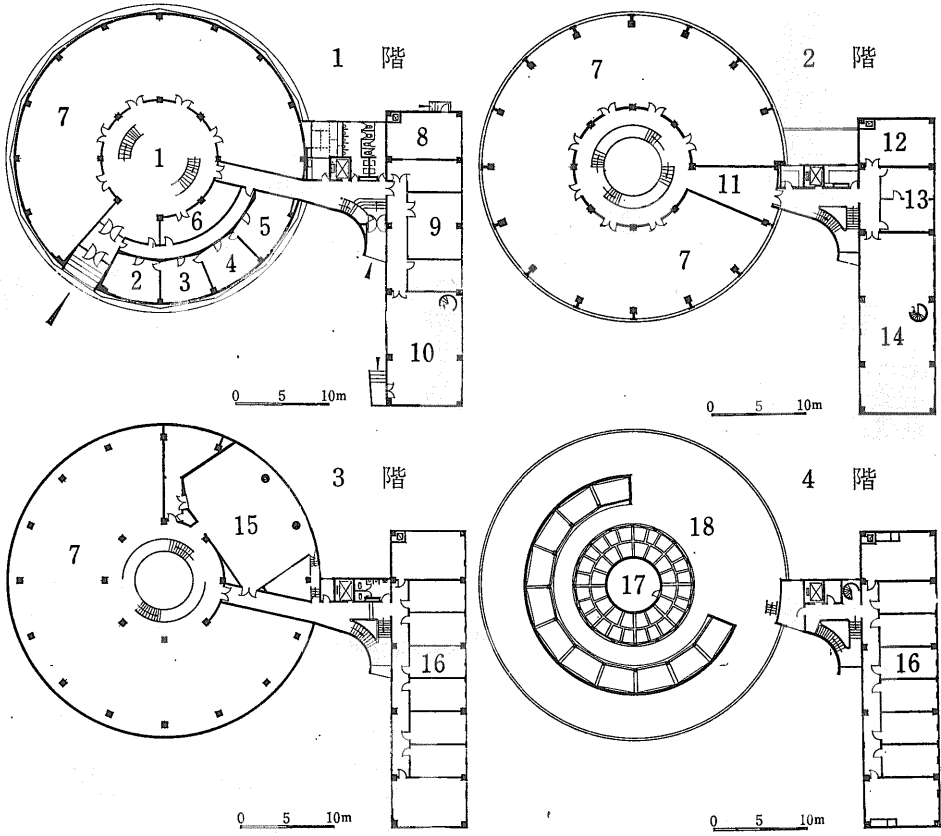
1階には 413.9平方メートルの陳列室と28.8平方メートルの特別陳列室がある。 この陳列室には 鉱物 岩石 非鉄金属鉱石以外の鉱石 化石 鉱業に関する文化史的資料 建築用石材などの標本が陳列されている(第



第1図 鉱業博物館の全景(大町北一郎技官撮影) 左側の円筒状の建物は陳列館 右側の長方形の建物は研究棟 両者の接続部の外装材は塩焼煉瓦が使われている



第2図 玄関左側の部分(大町北一郎技官撮影) 玄関のハメコシのガラス越しに黒く見える八角形は 鉱物の結晶の形を表わすモザイク張りの一つ



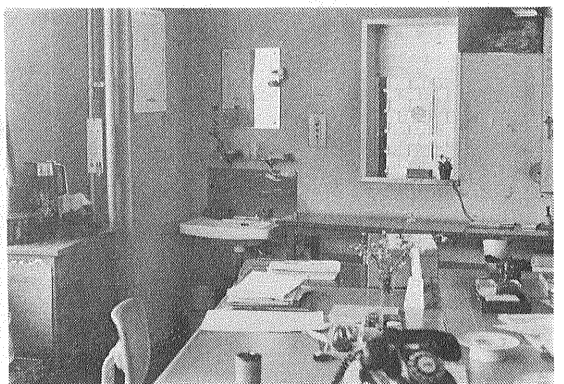
第3図  
室配置図(秋田大学  
鉱山学部 鉱業博物  
館 3頁 5頁 7  
頁より一部変更して  
転載)

- 1. 中央ホール
- 2. 事務長室
- 3. 館長接室
- 4. 会議室
- 5. 特別陳列室
- 6. 陳列室
- 7. ボイラー室
- 8. 工務室
- 9. 倉庫
- 10. 休憩室
- 11. 資料整理室
- 12. 石工標本格納室
- 13. 講堂
- 14. 研究室(全室)
- 15. ドーム屋根上
- 16. 屋上

10 11 12図). 陳列方法は いわゆる分類陳列法であるが 一部では 秋田県産の鉱物や鉱石が 一括して陳列されている(第13図). このような陳列がなされていることについては この博物館の入館者の多くが秋田大学の関係者や鉱業関係者 いわゆるある程度の専門的知識をもっていることを暗示しているように思える. しかし そうした知識をもっていない入館者のためにも

ある程度の配慮はなされている. 例えば 動物化石陳列の場に その動物の小型復原模型が置かれているのは その1例である(第12図).

円形建物の2階には 東側の建物との接続部の延長上にある休憩室を除いて 非鉄金属鉱石・鉄鋼原料鉱石とそれぞれの採鉱 選鉱 製煉 加工および利用に関する

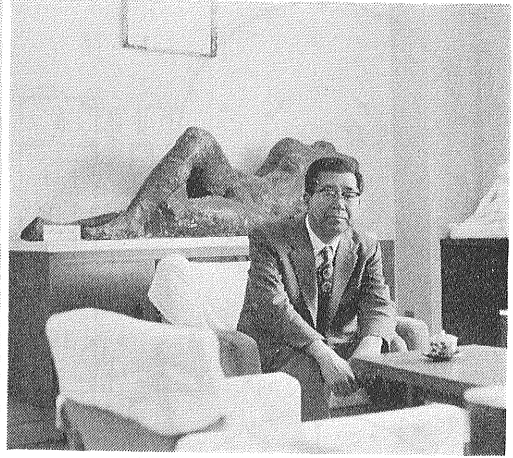


第4図 中央ホールの床のモザイク張り(大町北一郎技官撮影)  
円形のモザイク張りの中心は陳列館の中心に当る 中心部には 鉱石の大型標本が陳列されている 第3図で分るような階段は このモザイク張りを取巻くように円形に造られている

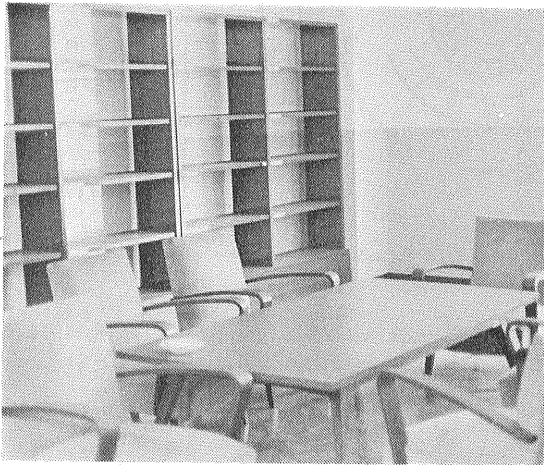
第5図 事務室の一部 右手前方の小窓は受付になっている



第6図 館長室



第7図 館長室と会議室の間にある応接室と 松隈寿紀教授



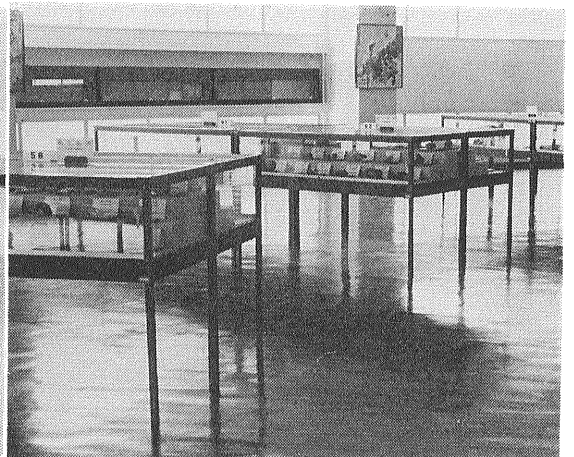
第8図 会議室 小じんまりとしているが 館員の会議のための室としては手頃である



第9図 工作室 説明用プレートやパネルなどは すべてこの工作室で作成されている



第10図 岩石の陳列 手前にあるタイプの陳列ケースは余り多くは使われていない



第11図 明るい陳列室 外光を最大限に取り入れるため 外壁は構造的に必要な部分を残してガラス張りになっている

標本・模型 非金属鉱物や岩石の利用に関する標本・資料等が陳列されている。 標本は 主要組成元素によって 分類展示されているが 金属鉱床の種類・数ともに卓越した東北だけに 金属鉱石標本はみごとである(第14図)。

東側建物の2階は 資料整理室 標本格納室 石工室に分れ 石工室では 岩石薄片・鉱石研磨片の作成や陳列標本の整形などが行なわれている。 薄片や研磨片は研究用として作成されているが この博物館の意義を思うと 恐らく 近い将来には 地球科学の普及という意味を含めて 入館者の検鏡試料としても利用されるのではなからうか。 2階の陳列室の面積は 634.1平方メートルである。

円形建物の3階には 515.1平方メートルの陳列室 144.3平方メートルで198の座席をもつ講堂がある。 この陳列室では 石炭 石油 天然ガス 核原料物質など

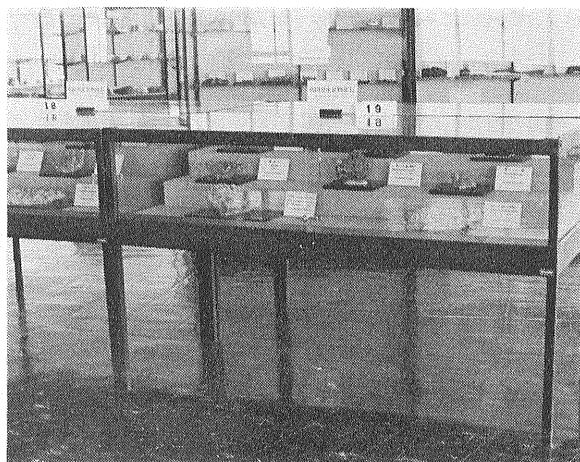
のいわゆる燃料資源とそれらの採取 選別および化学工業などの標本・資料・模型などが展示されている。

3階の陳列物の一つの特徴は 第15図に一例を示したように 石炭 石油 天然ガスなどの開発や探査に関する大型模型や実物 大型試錐コアなど 大型であるということである。 鉱物資源関係の陳列を行なっている既設博物館のほとんどは その探査や採掘に関する模型陳列を行なっていないだけに こうした陳列物は 技術者の育成という課題を含めて 重要な価値をもつ。 白竜号の模型と地質断面模型とを用いた海底油田の探査状況 精巧な堅坑槽の模型 多種多様な坑道枠の模型などは 現物を見る機会に恵まれない入館者にとっては 立派な鉱石の標本などと同様に あるいはそれ以上に 深い興味を抱かせる陳列物であろう。

当博物館における陳列は 3階陳列室の壁面に取付け



第12図 化石の陳列 陳列物の一つとして 代表的な大型動物の復原模型が陳列されている



第13図 秋田県産の鉱物と鉱石標本の陳列



第14図 鉱石の陳列 陳列標本の中では鉱石標本がもっとも立派である ここでは分類展示の一つとして亜鉛鉱が展示されている



第15図 燃料関係の陳列室にある模型の一つ 地質・鉱床・探査関係の重要事項などを 手前のスイッチと連結されたランプによって示すようになっている



られた「日本地質鉱産図」とこれに対応した鉱石標本の陳列によって 終る(第19図)。

東側建物の3階と4階には 分析室2室と研究室15室がある。 大学付属の博物館としては 分析室や研究室などは必要なさそうに一般には思われがちだし また入館者の多くは 博物館業務の一部として 研究業務が行なわれていることに気がつかない。

しかし 入館者の智識の一つの糧となる標本や模型やパネルなどを 一つの目的意識に従って より有効な方法・演出によって陳列するためには 学問的裏付けを欠くことはできない。 そのために 研究室や実験室などは 陳列・展示を行なうための基本的業務の場として 自然科学系の博物館や標本館などでは 確保されるべきであろうし また そうした業務が基礎の一つとなって 陳列・展示がよりよく行なわれることを 入館者に学んでもらうことも無駄ではなからう。

この建物にある研究室も 研究内容や使用機器類の違いによって 内部の状況はかなり異なっている(第17 18 19図)。 しかし 流しや棚などはほとんど同一規格のものを作りつけにし 将来の室転換に対する考慮が払われている。

講堂は講演会や学習の場として また 映像展示の場として使われている。 そのため 映写装置と小さな控室が設けられている。 最近の博物館には ほとんど例外なく このような映写設備をもつ講堂が設けられているが これは 恐らく視聴覚教育が博物館において重要な位置を占めることを示しているのであろう。

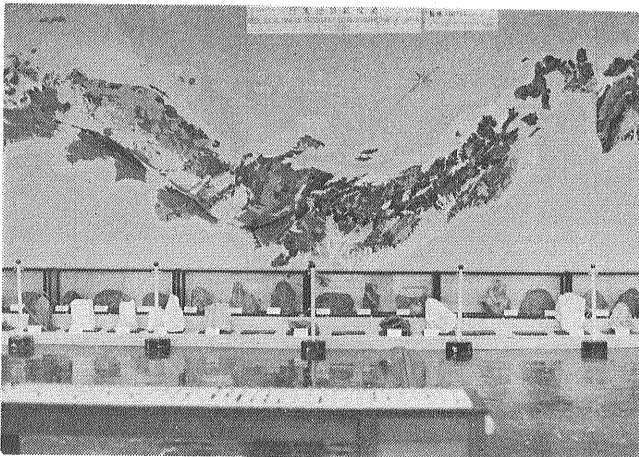
一通りの見学を終えて 屋上に出てみた。 付近一帯は 白銀の世界とは云えないまでも 雪におおわれてい

る。 駒ヶ岳の火山灰でも含まれているのか この博物館に来る途中の大学構内に積っていた雪の一部は 淡黄色であった。 建物の基部の回りに 妙な模様がある(第21図)。 水滴が雪を溶かして出来た模様だが 建物と雪の白 塩焼津瓦の渋い色 この模様の黒が妙に調和して 人手で作ったもののように見えた。

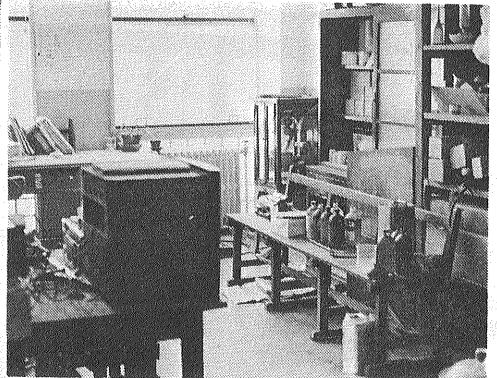
およそ1,590平方メートルの陳列面積は 博物館としては 決して広くはないが大型パネルのようなものを一切省き あくまでも標本や特定の模型に陳列の重点がおかれているせいか 空間も動線も広く 専門家と専門的知識を備えた人を対象にした質的に充実した博物館になっている。 この博物館は 今後一層充実されることだろうが 鉱業の活発さという点では わが国第一の東北地方を背景にしているだけに 地学の普及という面でもより一層の充実が計られるのかもしれない。 そうした時をもし迎えるとしたら その時点から この博物館の陳列のあり方も ある程度は変わるのではなからうか。

地球の歴史上に起った数々の事件の発生の原因と実態とそのもたらしたもの それに関連する生物の消長 地球の未来像 日増しに涵濁してゆく鉱物資源 火山活動や地震など 人間生活と深い係わりあいをもつ地質現象の神秘性とその究明の重要性などに関する陳列や解説は 多分 地質を知らない人々にとって もっとも興味をそそられるものであろうし また 地球科学の道への足がかりになるだろう。

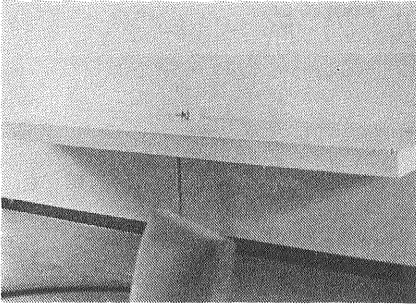
鉱業博物館は 多くの人々の努力と協力と善意とによって 完成し そして 多くの人々に知識の糧を与える場として 重要な位置を占めている。 しかし この博物館を本当に完成されたものとして見てよいのだろうか。 建物の規模・設備 陳列されている標本や模型の数・量



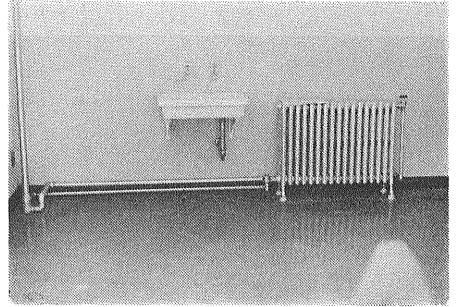
第16図 3階の壁面を一杯に使った立体地質鉱産図 立体地形模型に地質を示す彩色をほどこし おもな鉱山の位置を手前のスイッチによって点滅するランプで示すようになっている 下段の鉱石標本は 各鉱山の代表的鉱石である



第17図 東側建物にある研究室の1つ 研究室兼実験室として使用されている



第8図  
研究室の一隅 実験台・器具用台など多目的に使用できるようにコンクリート製の台が壁面に作り付けられている



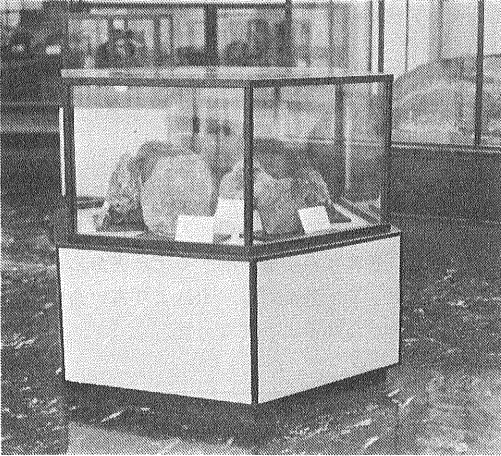
第19図  
研究室の一隅 化学薬品を使用するので流しはすべて磁器製になっている

の豊かさ 博物館業務などからみて 館員の増強と維持費の確保という面だけをみても 現在の館員の方々の御苦労ははかりしれないように思える。こうしたことがほんの一時の見学を終えた者の適正を欠く感想にすぎなければよいが、もし本当だとしたら この博物館の設立意義を全うし、そして 一層の活動をする上において

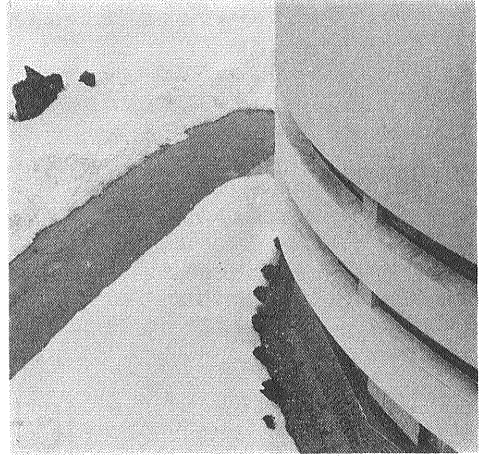
基本的に解決されなければならない問題だろう。

このような問題は 他の博物館においても 包蔵されているかもしれない。博物館等は 理想的活動とそれを支える人員の確保があってこそ 私には 完成されたものとして見える。

(筆者は 鮎床部)



第20図  
標本陳列ケースの一つ 陳列ケースは 第10～第14図に示したものとこの図に示したものにほとんどが統一されている ゆったりした動線幅と規格化された陳列ケースは視覚的にゆとりをみせている



第21図 陳列館外壁の一部を見る

### 新刊紹介

#### 物理探査

～資源開発から自然認識～

早川正巳著

物理探査の専門書としては 物理探査技術協会の十周年記念号および 二十周年記念号や石油技術協会等の出版物はあるが 物理探査全体についての入門書 やさしい解説書がなかなか見当たらない。その意味で本書は格好の参考書といえよう。物理探査はもともと石油 石炭等の燃料資源や鉱物資源を探査することからスタートしたのではあったが その後土木 防災関係から最近では核燃料 地熱等のエネルギー資源の探査 ひいては地震

火山現象等を含めての地殻の本質をきわめるためにも貢献している。

本書は これらの新しい物理探査技術の中味と共にその発展に如何にその背景となる当時の学問や技術が貢献してきたか また今日の自然環境や公害問題の解決へのアプローチにどのように結びつくかなど 著者がその豊かな経験をもとに歩んできた道をふり返りながら興味深く描いている。著者のもとも地質調査所でその半生を物探の発展と共に尽し 現在は東海大学海洋学部で活躍している。

B 6版 本文 243頁 挿入図 79葉  
定 価 650円  
発行所 〒150 東京都渋谷区宇田川町41-1  
日本放送出版協会  
NHKブックス 227